

FIGHTING POSE

written by HADEYA

1

走る。暗い深夜のストリートを。タイプ3の女性大統領は追われている。〈派閥〉から。派閥——クーデターを起こした独立系レジスタンス。呼吸が苦しい。大統領は立ち止まり、観念した。武装一団が現れ、囲まれる。「どうなるか分かっているな？」分かっている。レジスタンスの手口は半端ではない。もはや打つ手は……ない。

唐突に幼かった頃の記憶が蘇る。公園で走っていた自分。善悪も知らない純粹無垢な心。空は青く、大気は澄んでおり、草木の緑はどこまでも美しい……

立たされた。アキレス腱を切断されるのだろう。二度と歩けなくなるに違いない。そして私は絶望に染まる。

……生きるとは何だろう。ふいに考えた。人生は過酷だ。だからこそ私は気楽に考える。いつしか気楽は惰性に変わり、諦念へと昇華する。気付けば、何十年が過ぎている。

男がマチェットを構え、接近して来た。血も涙もない表情で唇を微かにズラしながら。映画館で食べるポップコーンの事を私は考えていた。非常時にも関わらず、驚くほど冷静だった。何故、こんなにも冷静なのだろう。何故、こんなにも愉快なのだろう。

男がマチェットを翳した。目にも止まらぬ速さで右足がマチェットを回避する。そのまま刃先を踏み付け、ローリング・ソバットで相手の首をヘシ折った。上半身を回転させながら流れるようなフォームで二人の男を向かいの壁まで突き飛ばす。

同時にクイック・ターンでもう一人の男を見た。男は震える手でビームガンを私に向けている。「アナタヲ、タスケタ。アナタモ、ワレワレヲタスケテホシイ」脳内で声がする。謎の声——啓示。

私は自分が目に見えない力で操られている事を知った。私は未知のファイティング・ポーズを構えていた。〈ロマン〉と言う名の最強格闘技のファイティング・ポーズを。

「……た、助けてくれ」男を突き飛ばし、ノゾミは再び走り出した。走りながら啓示と対話する。「真実を話す。心して聞いて欲しい」「覚悟は出来ている」

自問自答しながら深夜の路地裏を駆け抜ける。同時に脳内にビッグデータが流入する。

ビッグデータ——地球の伝説、ハリウツの黄金期。

熱狂と興奮、感動と癒し。映画、それはロマンだ。未知の惑星への冒険だ。

劇場の幕が上がる時、我々は期待し、胸トキメかせる。

そこから我々は何を学ぶか。何を得るか。君はそれを知っている。

感動だ。その壮大さに君の心は弾む。その体験は君の人生を変える。

たかが映画、されど映画だ。

映画には人を、そして世界を変える影響力がある。

かつて私はそれを信じ、その虜になった。

映画に夢中になり、それが嵩じて自分で映画を作るようになった。

人生に必要な事は全て映画から学んだ。

いつしか映画は弱体化した。人々は映画以上に〈現実〉を見るようになった。

ロマンを捨てたのだ。私とて例外ではない。高度情報化する社会において制作環境は複雑になった。複雑に複雑が悪循環として重なった。

今、私は自分を取り戻す。

童心に返り、突っ走る。かつて私が燃えていたように。人生の熱狂を奪還する。

時は今だ。やるしかない。

駆け抜ける——路地裏を。彼らは……君たちは待ち望んでいる。

熱狂と興奮を、映画のスピリットを。

敵軍が押し寄せた。至る所に。マシンガンと手榴弾で完全武装して。

「撃てえっ！」

マズルフラッシュが光った。私は銃弾より速く、路地裏を駆け抜けている。

私は世界の〈希望〉となる。私は地球に残された一人きりのレジスタンス——孤高。

この意味が分かるか、この言葉の重みが君には理解できるか？

信じ、最前線で闘う事の意義。

君は人生を賭けて闘った事があるか？

目の前の黒幕に飛び掛かる。一気に懐に潜り、ナイフを払い、掌底で支配者のアゴを打ち砕く。

「これで貴方は喋れない」

告げた。それが当然であるかのように。

「貴方は死ぬ。私は生きる。それだけの話」

アナタハ、シンノカイホウシャ、ダ———脳内で声がある。謎の声、啓示が聴こえた。

「私は解放者ではない———」

独り言を呟いた。熱気を帯びた声音。

「———私の名は、ノゾミ。どこにでもいる庶民だ」

ノゾミが支配者の胸を右拳で射抜き、引き抜く。その手には支配者の心臓が握られている。

心臓は脈打っている。ドクドク、と。確実に。

ノゾミは心臓を握り潰した。ノゾミは自らの〈実力〉を示した。

ノゾミは都市の伝説となり、風のように姿を消した。

……以後、ノゾミを見た者はいない。

かつて我が子をヘロインのODで失い、墮落し切ったノゾミ。自力で這い上がり、世界の頂点に登り詰めた。

ここに、あなたは〈神〉を見る。この無限選択解釈宇宙において。

天文学的に低い確率の宝くじを当てたなら、あなたは違う生き方を試みる筈———

夜の路地裏を駆ける疾風の如く。朝焼けの彼方に広がる果てなき地平の如く。

こうして宇宙人は誕生した。(ア)

キリミハデヤ

hadeyakirimi@gmail.com

81-080-9832-0574

モリカワ ケンタロウ 口座番号

三井住友銀行(店番号232) 普通口座 口座番号:7342872